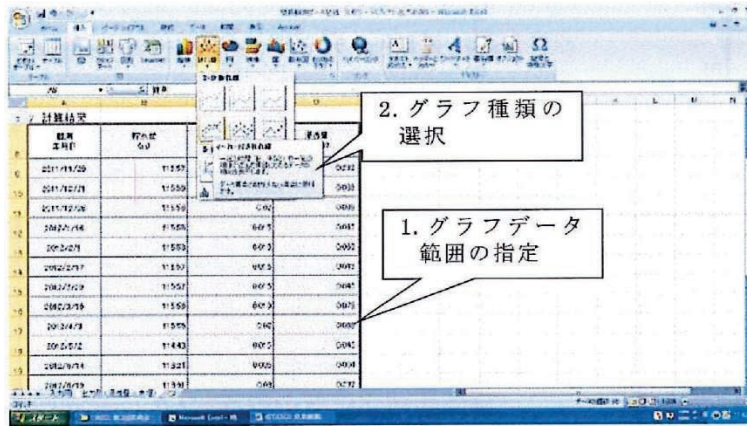


(3) 浸透量－貯水位履歴図作成例（エクセル 2007 による例）

作業手順①：グラフ種類の選択

ここでは、マーカー付き折れ線グラフの作成例を示す。

【表示画面】

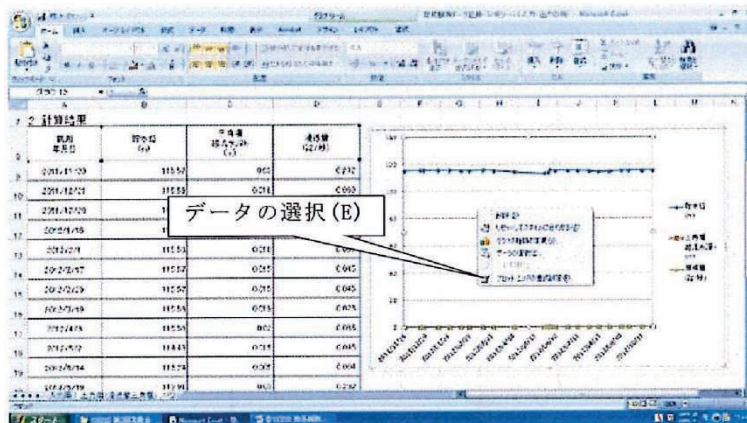


【作成手順解説】

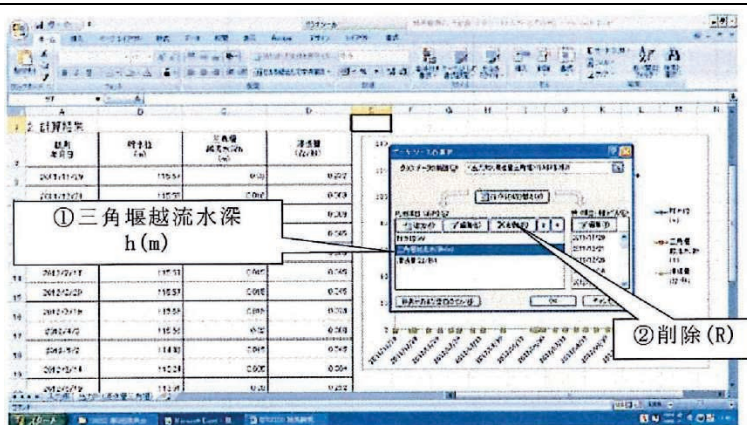
1. グラフデータ範囲の指定
クリックとドラッグにより、データ系列名を含む範囲を指定
2. グラフの種類の選択
データ範囲指定された状態で、[挿入]－[グラフの折れ線]－[2-D 折れ線 マーカー付き折れ線]を選択

作業手順②：三角堰越流水深データ指定の解除

「浸透量－貯水位履歴図」の作成において、「三角堰越流水深」は必要ではないデータであるため、三角堰越流水深データの指定を解除する。



3. データの選択
グラフ中央の任意の点で右クリックし、[データの選択 (E)]をクリック

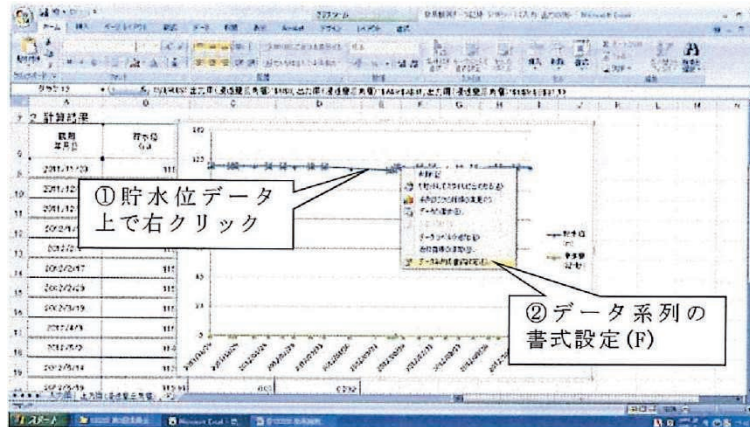


4. 三角堰越流水深データ指定の解除
① [データソースの選択] の [凡例項目 (系列) (S)] の [三角堰越流水深 h(m)] を選択
② [削除 (R)] をクリック

作業手順③：第2軸の設定

浸透量(ℓ/秒)と貯水位データ(m)の単位が異なることから、貯水位を右側の縦軸の第2軸として設定する。

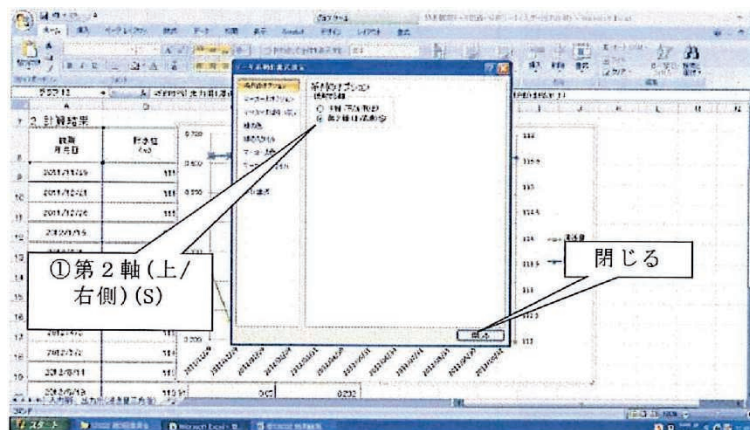
【表示画面】



【作成手順解説】

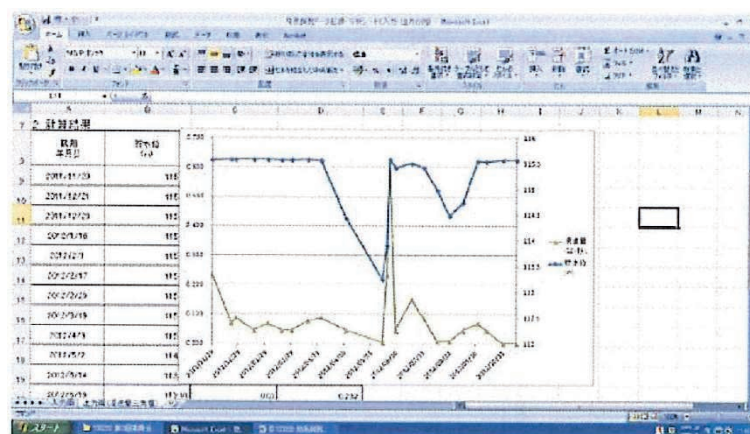
5. データ系列の書式設定

- ①貯水位データ上で右クリック
- ②[データ系列の書式設定(F)]を選択



6. 第2軸の設定

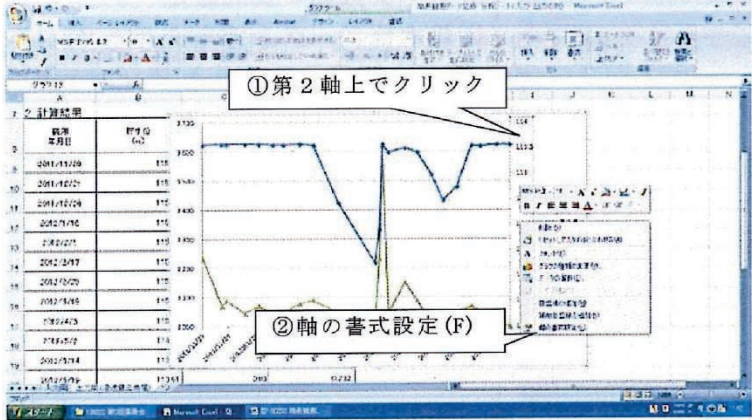
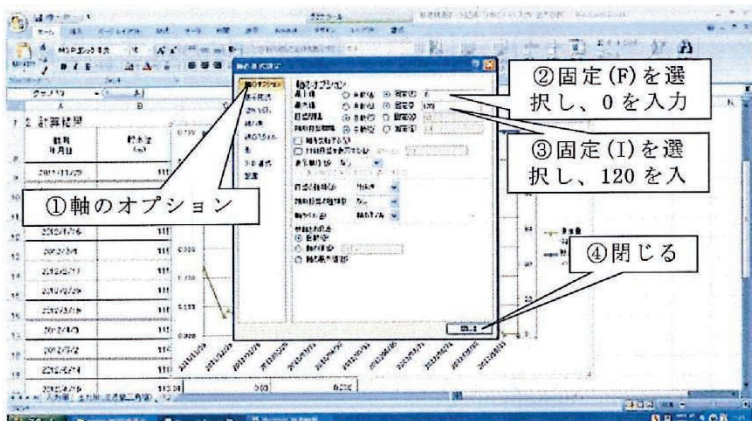
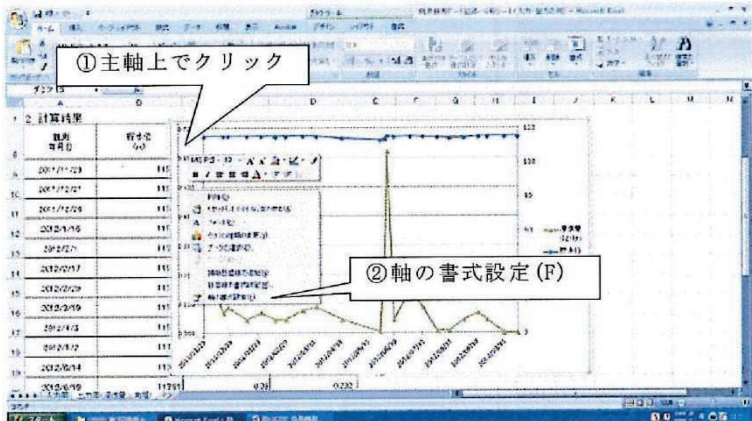
- ①[系列のオプション]の[第2軸(上/右側)(S)]を選択
- ②[閉じる]ボタンをクリック

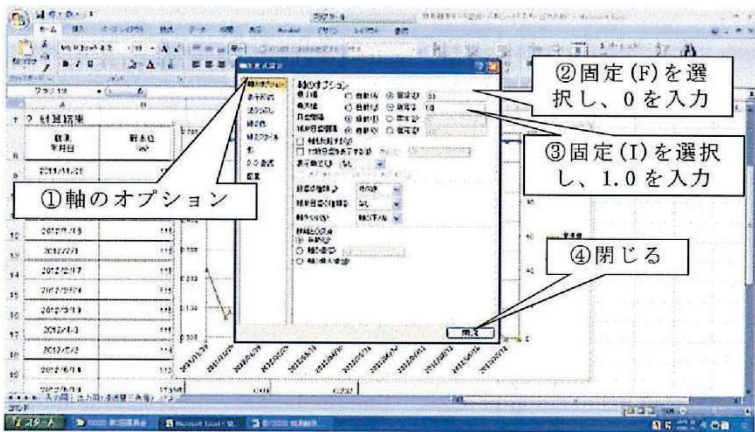
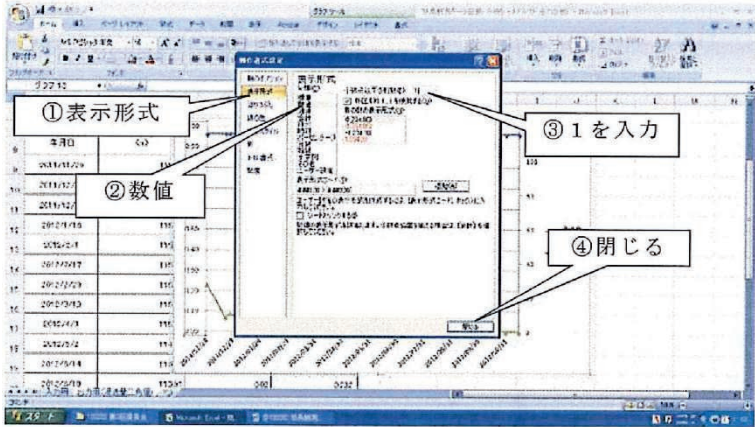
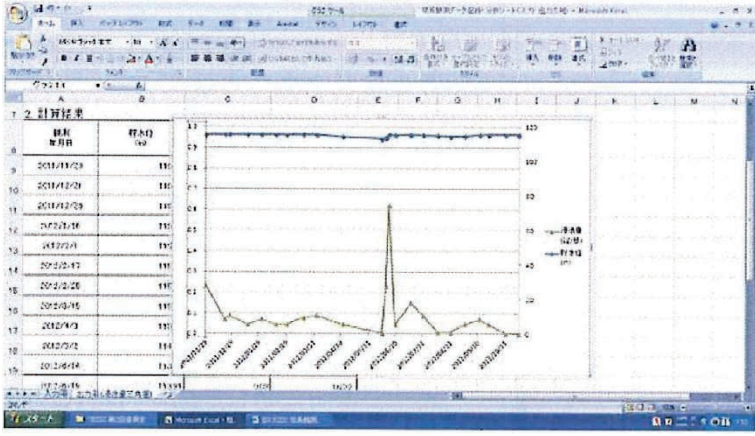


左図のようなグラフが概成される。

作業手順④：軸の最大値、最小値の設定

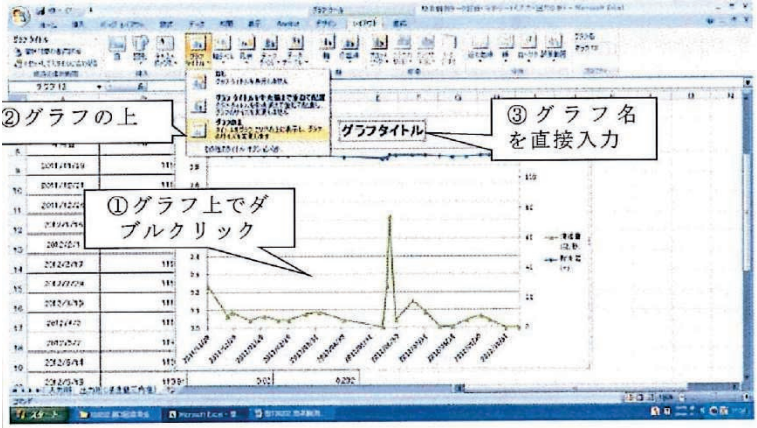
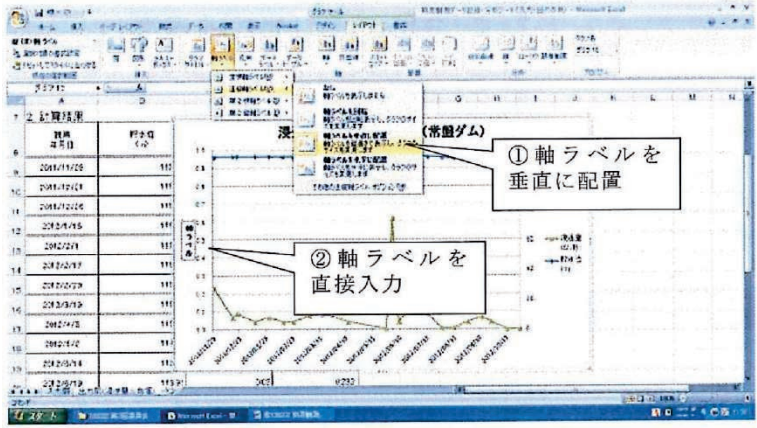
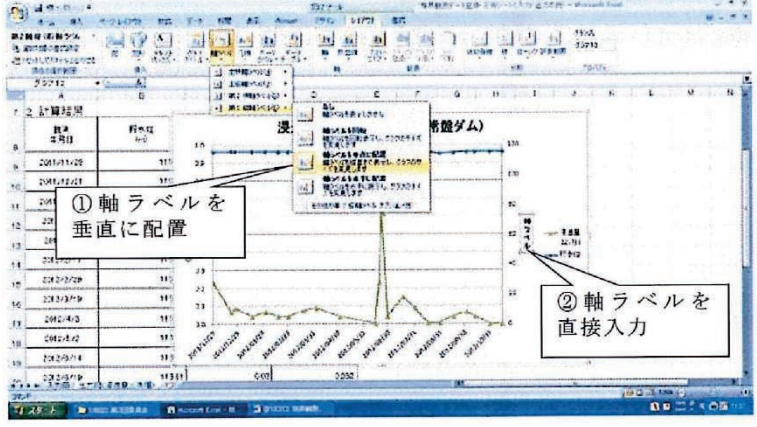
グラフの軸の最大値、最小値を設定する。ここでは、第2軸(貯水位の軸)の最小値を0、最大値を120、主軸(浸透量の軸)の最小値を0、最大値を1.0とする例を示す。

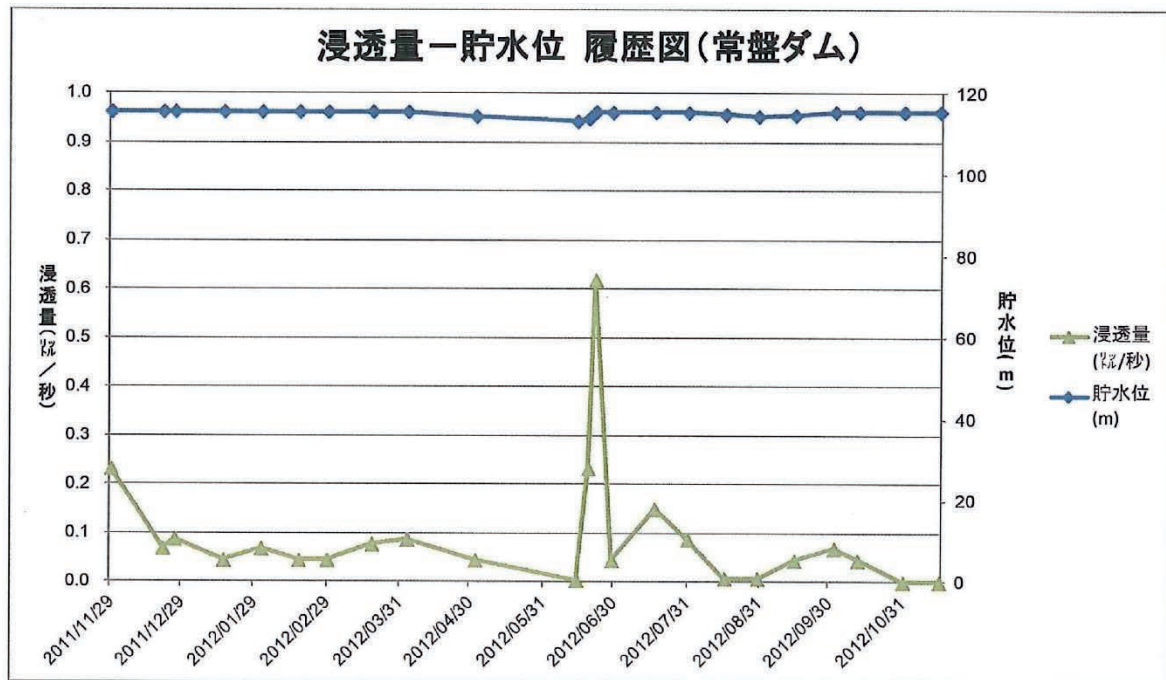
【表示画面】	【作成手順解説】
	7. 第2軸の書式設定 ①右側の第2軸上で右クリック ②[軸の書式設定(F)]を選択
	8. 第2軸の最小値、最大値の設定 ①[軸のオプション]を選択 ②[固定(F)]を選択し、最小値に0を入力 ③[固定(I)]を選択し、最大値に120を入力 ④[閉じる]ボタンをクリック
	9. 主軸の書式設定 ①左側の主軸上で右クリック ②[軸の書式設定(F)]を選択

【表示画面】	【作成手順解説】
 ①軸のオプション ②固定(F)を選択し、0を入力 ③固定(I)を選択し、1.0を入力 ④閉じる	10. 主軸の最小値、最大値の設定 ①[軸のオプション]を選択 ②[固定(F)]を選択し、最小値に0を入力 ③[固定(I)]を選択し、最大値に1.0を入力 ④[閉じる]ボタンをクリック
 ①表示形式 ②数値 ③1を入力 ④閉じる	11. 主軸の表示形式の設定 ①[軸の書式設定]の[表示形式]を選択 ②[分類(C)]の[数値]を選択 ③[小数点以下の桁数(D)]に1を入力 ④[閉じる]ボタンをクリック
	左図のような軸の最小値、最大値が設定されたグラフが概成される。

作業手順⑤：グラフタイトル、軸タイトルの編集

グラフタイトル、軸タイトルを編集する。

【表示画面】	【作成手順解説】
	12. グラフタイトルの編集 ①グラフ上の任意の場所でダブルクリック ②[グラフツール]の[レイアウト]、[グラフタイトル]、[グラフの上]を選択 ③グラフ名を直接入力
	13. 主軸タイトルの編集 ①[グラフツール]の[レイアウト]、[軸ラベル]、[主縦軸ラベル(V)]、[軸ラベルを垂直に配置]を選択 ②軸ラベルを直接入力
	14. 第2軸タイトルの編集 ①[グラフツール]の[レイアウト]、[軸ラベル]、[第2縦軸ラベル(E)]、[軸ラベルを垂直に配置]を選択 ②軸ラベルを直接入力



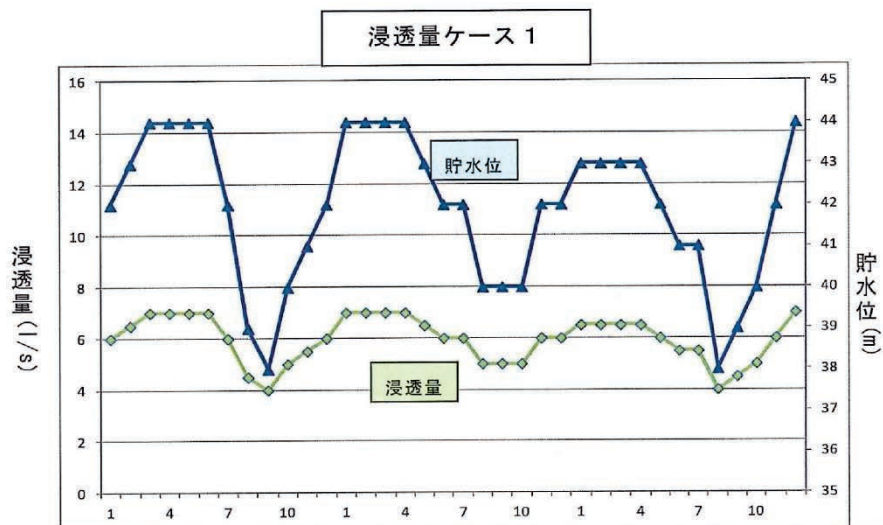
グラフ：常盤ダムの浸透量－貯水位履歴図

3. 観測データの評価

(1) 観測データの評価

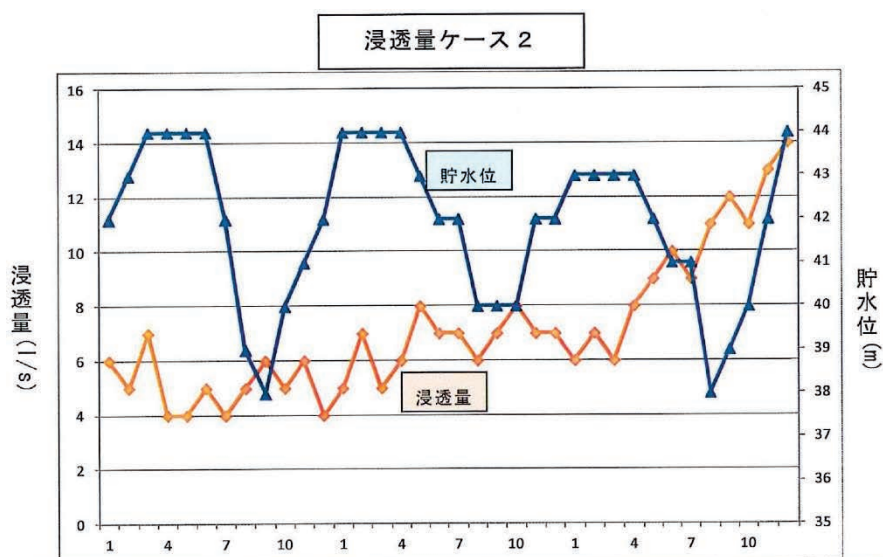
計測結果を用いて、縦軸に浸透量（浸潤線水位）と貯水位、横軸を時間軸として作成したグラフの図化イメージと評価例を示す。

ア) 浸透量



【評価例】

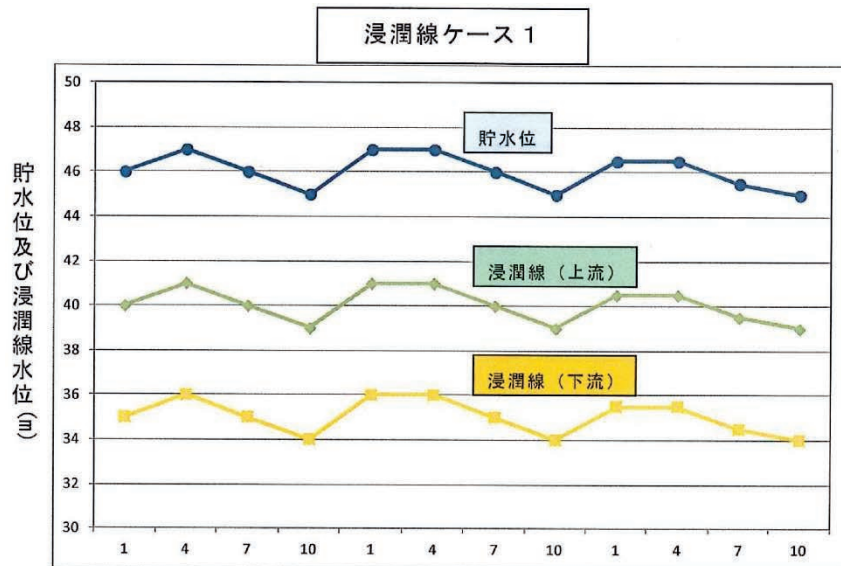
貯水位と浸透量が連動しており、浸透量の傾向も一定（増加傾向にない）であることから、異常は認められない。



【評価例】

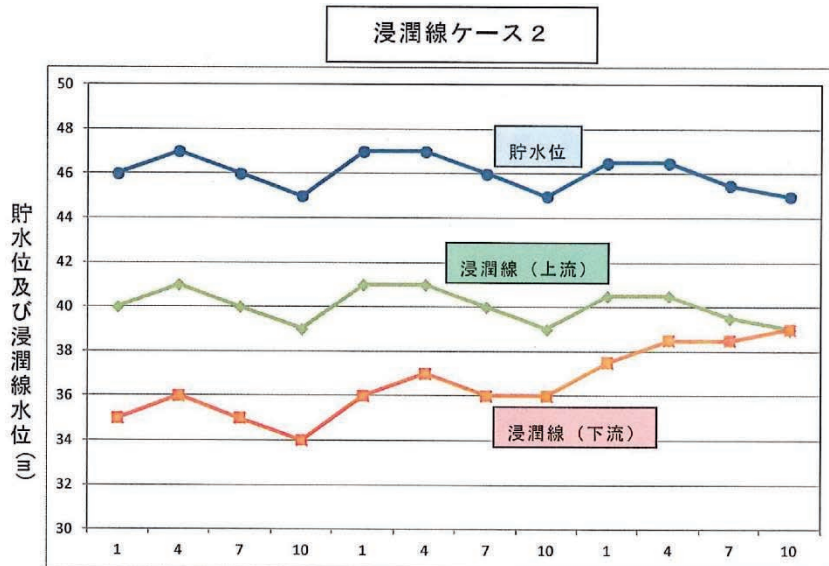
貯水位と浸透量が連動しておらず、浸透量が増加傾向にあり、異常と認められる。観測頻度を上げると共に早急な詳細調査が必要である。

イ) 浸潤線



【評価例】

貯水位と浸潤線水位が連動、上流側よりも下流側の浸潤線水位が低く、いずれの値も増加傾向にないことから、異常は認められない。



【評価例】

下流側の浸潤線水位が上流側の浸潤線水位まで上昇しており、異常と認められる。観測頻度を上げると共に早急な詳細調査が必要である。